

逗子の景観まちづくり

瓦版 第六十号

平成三十年七月十五日 次号は十月発行予定

編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の

景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp

「田越川のホタル」

子どものころからホタルが好きでした。ホタルは人を恐れず、近くに寄っても逃げない。両手でそっと包むようにして捕まえたものです。当時は夜になると蚊帳を吊りましたので、そこにホタルを放し、明かりを落とし、ホタルの光を楽しみ

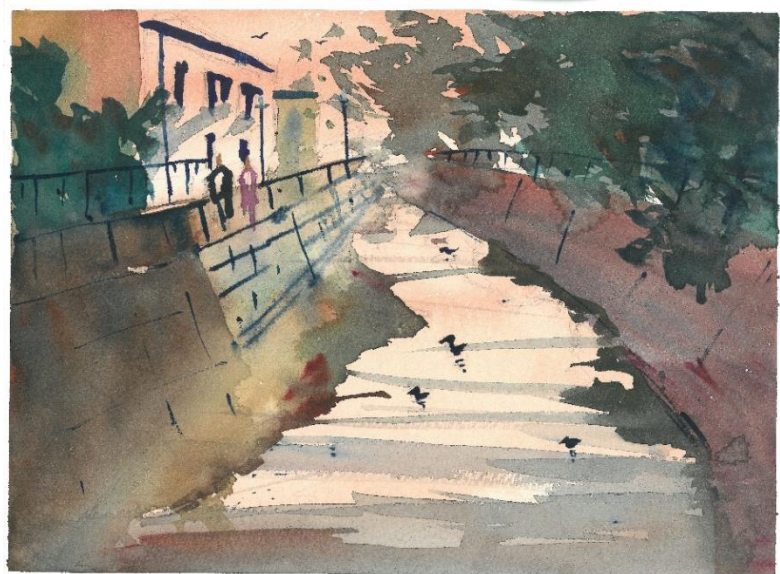


「田越川」 絵 永橋 為成

ました。とても身近な存在だったので。

「ホタルの里の会」として、平成25年から田越川の清掃とホタルの観測をしています。観測は下流から上流に向かって、小泉鉄工所裏門前橋、光照寺裏、馬場橋下流、馬場橋と法勝寺橋間、法勝寺橋上流、お地藏様付近、武道橋上流、親水階段5月中旬か6月上旬まで、毎日同じ時間に一人で移動します。一カ所で5秒間、光を数え、それを3回繰り返して記録します。多く飛ぶ年もあれば少ない年もありますが、「今年が多いとか少ないとか、あまり一喜一憂しないでくださいね」とはホタル博士の大場信義先生のアドバイス。長い目で見守ることが大切だと思います。

ホタルは実は清流と言われる川にはいないのです。田畑が近くにあり、有機物が流れている川には幼虫のエサとなるカワニナなどが豊富ですし、川に覆いかぶさるように生えた木は羽化したホタルの棲家となります。平成28年、生息流域の川沿いにホタルに影響の少ない街灯を逗子市とメーカー、地域住民の協力で設置しました。また付近の住民は、ホタルの舞う季節には川に面した窓の明かりを消すなど協力してくださっています。大場先生によれば「ホタルにいい環境は、人にとっても好



「夕焼けの田越川」 絵 伊藤 日美子

ましい環境」とのこと。まちの環境を考えると、ホタルの生息環境であるかに思いを向けてみるものではないでしょうか。

清水 一良（話し手）
及川 佳寿美（聞き手）

逗子市景観資産 ～夏特集～

まぶしい夏の季節がやってきました。逗子の夏は花火から始まります。海は赤青黄色鮮やかな閃光がきらめき、今年も逗子海岸は大勢の人で埋め尽くされました。6月29日（金）に海開きを終えて、多くの海の家がオープンし、市内外からの方々が賑わっています。

小坪漁港、逗子マリーナなど逗子の景観は海なしには語ることはできません。それぞれの場所に多くの方が大切な思い出を持っていることでしょう。夏を感じられる景観資産に足を運んでみては、いかがでしょうか。



逗子景観賞 Vol.3 及川佳寿美（逗子文化の会）

新宿の海沿いに建つ「黒門」。ゆったりとした車寄せのある重厚な門と植木は、第1回の逗子景観賞を顕彰した9カ所のうちのひとつです。大正11年に成瀬正恭氏（第15銀行頭取）が土地を購入し、別荘を建築。黒門は、薩摩屋敷に建てられた「鹿鳴館」から移築されたものだとも伝えられています。長男の正一氏が芥川龍之介、久米正雄、松岡譲、菊池寛と帝大の同級生であったことから、第4次「新思潮」を創刊（大正5年）するにあたり、この邸宅で頻りに集まりを持っていた。

昭和大恐慌で第15銀行が破綻すると不動産会社の管理下に入り、昭和12年、新潟の豪農・伊藤文吉氏が別宅として購入しました。現在はご子息の伊藤淑郎氏が管理。「黒門カルチャーくらぶ」として、逗子市民にはおなじみのレンタルスペースとなり、講習会やイベントなどに活用されています。黒松のあるこの風景。長く残していきたいものです。



※逗子景観賞

逗子景観賞は市民による市民のための景観賞として、1992年から10年間続けられた事業です。現在その取り組みは行われていませんが、受賞当時の趣やプレートが残されている場所があります。今後も受賞の経緯や当時の景観等を紹介していきます。

田越川・久木川一斉清掃

表面でご紹介しました田越川について、平成30年6月2日（土）に一斉清掃がおこなわれました。今回で11回目となる逗子の恒例行事ですが、今年もたくさんの方（549人）の参加があり、640kgものゴミが回収されました。年々ゴミの量は減少傾向にあるようです。このような活動のおかげで、生態系や景観が保たれているんですね。参加された皆様、ありがとうございました。



鎌倉水彩画塾のご紹介

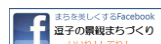
表面の絵「夕焼けの田越川」を描いてくださった伊藤日美子さんが参加されている水彩画塾は、逗子市民交流センターでも、『水彩画のワークショップ』を開催しています。

主宰は、芸術文化振興協会の矢野元春先生。日本ではほとんど知られていない最先端の画法で、初心者でも約1時間で、絵を描けてしまうとか。10月10日（水）には「逗子の街並みを水彩画で描こう！」というスケッチ会を行います。

興味のある方は下記連絡先までどうぞ。

鎌倉水彩画塾；080-6578-9290（矢野さん）

瓦版編集担当 逗子市環境都市部まちづくり景観課



逗子市 HP やフェイスブックも見てね！

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎一階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。